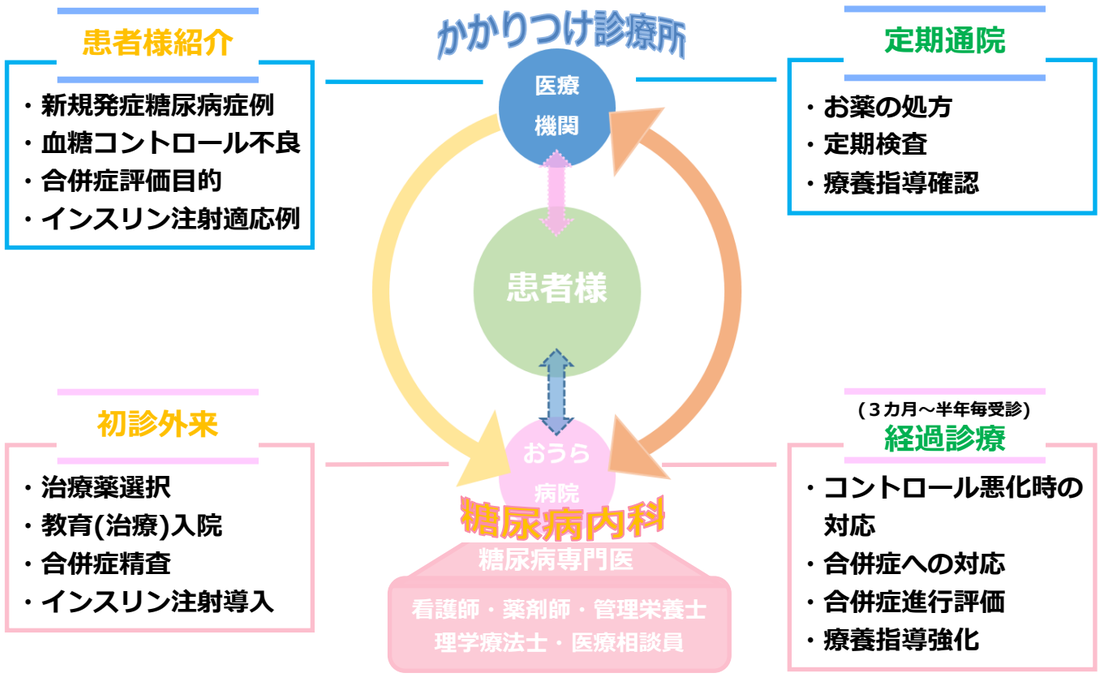
糖尿病地域連携のご案内

糖尿病治療の役割分担を明らかにし、患者様には低血糖を起こさせず、安全で質の高い医療と、QOLの向上を図っていただけるよう、かかりつけ医の先生方とおうら病院との間の紹介・逆紹介を介した糖尿病地域連携システムです。

地域の先生方の専門領域は問わず、糖尿病の治療中断防止や血糖コントロールの維持、合併症の予防・早期発見・治療を目的に、患者様の情報を共有し、双方向の診療システムで医療提供を行います。

治療方針が確定すれば、その後の患者様の定期通院はかかりつけ医で行われます。

糖尿病治療における主治医２人体制



《対象患者様》

1.新規発症：HbA1c6.5%以上　2.血糖コントロール不良：HbA1c8.0%以上
3.コントロールが不安定な場合　4.緊急性が高い場合　5.合併症検査が必要な場合
6.その他、主治医が必要と判断した場合

お問い合わせ　地域医療連携室　ＴＥＬ　0276-88-8611

医療法人社団 醫光会　おうら病院

け　や　き

おうら病院地域連携室だより

令和２年 秋号

病院理念	やさしさに出会う医療を　やすらぎに出会う医療を　そして、生きがいに出会う医療を
基本方針	1.患者様の権利と意思を尊重し、合意と理解に基づく「患者様主体の医療」を行います 2.チーム医療を実践し良質かつ安全な医療を提供します 3.地域の医療機関・福祉施設と密な連携を図り、地域医療の発展に貢献します 4.職員一人一人が技術のさらなる習得に励み、最良の医療の提供を目指し、明るく豊かで思いやりのある病院づくりを行います 5.医療資源の適正利用と健全経営を遂行します 令和2年4月1日改訂

新入職医師の紹介

泌尿器科　須藤　利雄

9月1日よりおうら病院の常勤医としての勤務を開始した須藤と申します。出身は埼玉県の旧花園町（関越自動車道花園ICがあります。現深谷市）というところです。群馬県での勤務は今回が初めてですが、春～秋は山登りやサイクリング、冬はスキーと以前から親しんで参りました。

大学卒業後は泌尿器科医局に入局し腎移植チームなどを担当するなど、腎不全の病態やバスキュラーアクセスの管理を学びました。透析患者様達への関わりも同じ時期からです。当初は合併症の多さや診療内容の広さから難しい領域だと感じました。今でもそれは変わりませんが、患者様達が言われることになんとか答えようと勉強しているうちに、徐々に知識は増え透析専門医を取得することもできました。これからも診療に臨む姿勢をかえることなく患者様に向き合っていきます。

当院では腎代替療法の中で血液透析のみを行っています。病気に対する不安は誰でも変わりませんが、血液透析を受けている患者様達は、腎機能の比較的良い人たちに比べれば合併症が多く不安も大きいだろうと思います。それにも関わらず病態の特殊性から気軽に一般の医療機関を受診することもできず、自宅での療養が困難になった場合でも通常の老人保健施設などへの入所が難しいのが現状です。定期的な採血、超音波検査、CTなどの画像検査で、体の状態を把握していくだけなく、症状に合わせ必要な検査を行い病状の相談に対応しています。バスキュラーアクセスに対するカテーテル治療等も行っており、アクセストラブルに対応しています。今後、内シャント造設術、再建術等に対応できるよう準備をしていく予定です。

血液透析を受けられる患者様達が、前向きな気持ちで生活できるよう力になれらば幸いです。よろしくお願いいたします。

Profile

日本泌尿器科学会専門医

日本透析医学会専門医

Contents

おうら病院 入院診療
看護部長挨拶
入院・転院相談のご案内
糖尿病連携のご案内

発　行：おうら病院　地域医療連携室　発行日10月吉日
所在地：〒370-0615　群馬県邑楽郡邑楽町篠塚3233-1
電　話：0276-88-8611（地域医療連携室 直通）
0276-88-5678（代表）
ＦＡＸ：0276-88-5992

おうら病院　入院診療

3階 一般病棟

急性期一般入院料5　39床

3階病棟では、今年4月から糖尿病内分泌内科の秋山病院長と循環器内科の中村医師、9月からは泌尿器科の須藤医師が加わり、病棟担当医4名体制で急性期一般病棟として、主に内科疾患の治療・看護を行っております。

糖尿病治療では、血糖コントロール改善に向けた薬剤調整の他、患者様やご家族に対する糖尿病教育、インスリンや自己血糖測定指導を多職種連携のもと行っております。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフ等が専門性を発揮し、患者様やご家族が安心して自宅での糖尿病療養が続けられるよう努めております。

また、入院時より退院後の患者様の生活を見据えた支援も重視しております。特に高齢の患者様は、退院後にご家族や在宅医療・看護・介護等の支援が必要になる場合が多く、患者様やご家族が安心して退院後の生活を継続出来るよう、入院早期から多職種で介入させていただき、患者様やご家族・退院後支援をして下さる在宅サービスの方々との協働を積極的に行っております。

邑楽町唯一の病院として、地域住民の方や近隣医療・介護施設様からの入院を積極的に受け入れております。信頼される医療・看護を目標に、質の高い医療・看護が提供出来るよう今後も病棟スタッフ一同、努めてまいります。

2階 療養病棟

療養病棟入院基本料1　41床

2階病棟は長期療養が必要な患者様に対し、医療・看護・介護・リハビリテーションを行っている病棟です。中心静脈栄養や人工透析、在宅復帰に向けて退院支援などが必要な患者様が入院しています。

入院されている患者様の多くは、ご自身で寝返りや離床ができません。当病棟では積極的に患者様を車いすへ移乗し、メリハリのある療養生活を心掛け寝たきり防止に努めています。さらに、患者様に豊かな療養生活を過ごして頂けるよう、食堂を季節ごとに飾りつけ、患者様同士やスタッフがコミュニケーションを取りながら楽しく食事ができる環境を整えています。また、日常生活自立度や栄養状態の低下により発生しやすい「床ずれ」に対し、今年度は最新の体圧分散寝具（エアマット等）を新たに追加し、医師や看護師、管理栄養士などが連携し「床ずれ」予防に力を入れて取り組んでいます。

コロナ禍でご家族とのご面会もままならない中、これからも入院患者様が安心して療養生活が送れるよう、思いやりのある看護を提供して参ります。

入院・転院相談について

連携医療機関・施設からのご紹介、入院・転院相談に迅速に対応する為に、当院では紹介受入専任の看護師を配置しております。また、患者様には安全・安心の入院生活をお過ごしいただけるよう、地域医療連携室のスタッフを窓口に、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフ等の多職種が入院時から退院時まで、きめ細やかなかかわりを持たせていただきます。

病床管理師長　大嶋 千絵

厚生労働省では、地域完結型を目的とした地域包括ケアシステムの構築を推進しています。

地域から必要とされる病院を目指し、今後はより一層顔が見える病院連携・病診連携、また施設との連携を強化し、スムーズかつ迅速な受入れ対応をさせて頂きたいと思っております。

看護部長挨拶　高岩 ともえ

優しさと思いやりと笑顔のある看護の提供を

おうら病院は、病床数80床と透析施設を有する小さな病院です。近隣のクリニック様や介護施設様からの入院要請をはじめ、地域の中核病院との連携を強化し、長期療養や維持透析が必要な患者様を積極的に受け入れております。

患者様に「優しさと思いやりと笑顔のある看護」を提供するためには、看護職が患者様やご家族様に真摯に向き合う姿勢、また専門職業人としての知識や技術が必要です。看護部では、看護教育体制にクリニカルラダーを活用し看護実践能力の向上に努めております。また、ワーク・ライフ・バランスや各種資格取得の支援を推進し、看護部職員がやりがいを持って働き続けることができる職場環境を整えることで、地域社会のニーズに沿った質の高い看護を提供できる人材育成に取り組んでおります。

今年度から診療体制を変更いたしました。邑楽町唯一の病院として専門性を発揮することはもちろんのこと、「地域主体の医療・看護」を提供することで、地域包括ケアシステムの中で当院の役割をしっかりと担っていけるよう尽力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。